

DIALOG(R) File 351:Derwent WPI
(c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

007060382

WPI Acc No: 1987-060379/ 198709

XRAM Acc No: C87-025184

XRPX Acc No: N87-045681

Image retention material - has surface layer contg. graft polymer of monomer contg. fluorine atom in side chain and specified macro-monomer

Patent Assignee: CANON KK (CANO)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 002

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 62014657	A	19870123	JP 85152428	A	19850712	198709 B
JP 94050404	B2	19940629	JP 85152428	A	19850712	199424

Priority Applications (No Type Date): JP 85152428 A 19850712

Patent Details:

Patent No	Kind	Lan Pg	Main IPC	Filing Notes
-----------	------	--------	----------	--------------

JP 62014657	A	6		
-------------	---	---	--	--

JP 94050404	B2	6	G03G-005/147	Based on patent JP 62014657
-------------	----	---	--------------	-----------------------------

Abstract (Basic): JP 62014657 A

The material has surface layer which retains electrostatic latent image or toner image. The surface layer contains a graft polymer which comprises (A) a polymerisable monomer contg. fluorine atom in its side chain and (B) a macromonomer having polymerisable functional gp. at one of the terminals of the molecular chain, and having affinity with the main (binding) resin which composes the surface layer after polymerisation with (A).

The surface layer contains 0.01-10 wt.% of graft polymer. The surface layer is provided on a photoconductive layer, or it itself is photoconductive.

USE/ADVANTAGE - The surface layer has high transparency and good hydrophobic property. Residual potential does not accumulate. The invention can produce high quality images.

0/0

Title Terms: IMAGE; RETAIN; MATERIAL; SURFACE; LAYER; CONTAIN; GRAFT; POLYMER; MONOMER; CONTAIN; FLUORINE; ATOM; SIDE; CHAIN; SPECIFIED; MACRO; MONOMER

Derwent Class: A89; G06; G08; P84; S06

International Patent Class (Main): G03G-005/147

International Patent Class (Additional): G03G-005/04; G03G-005/14

File Segment: CPI; EPI; EngPI

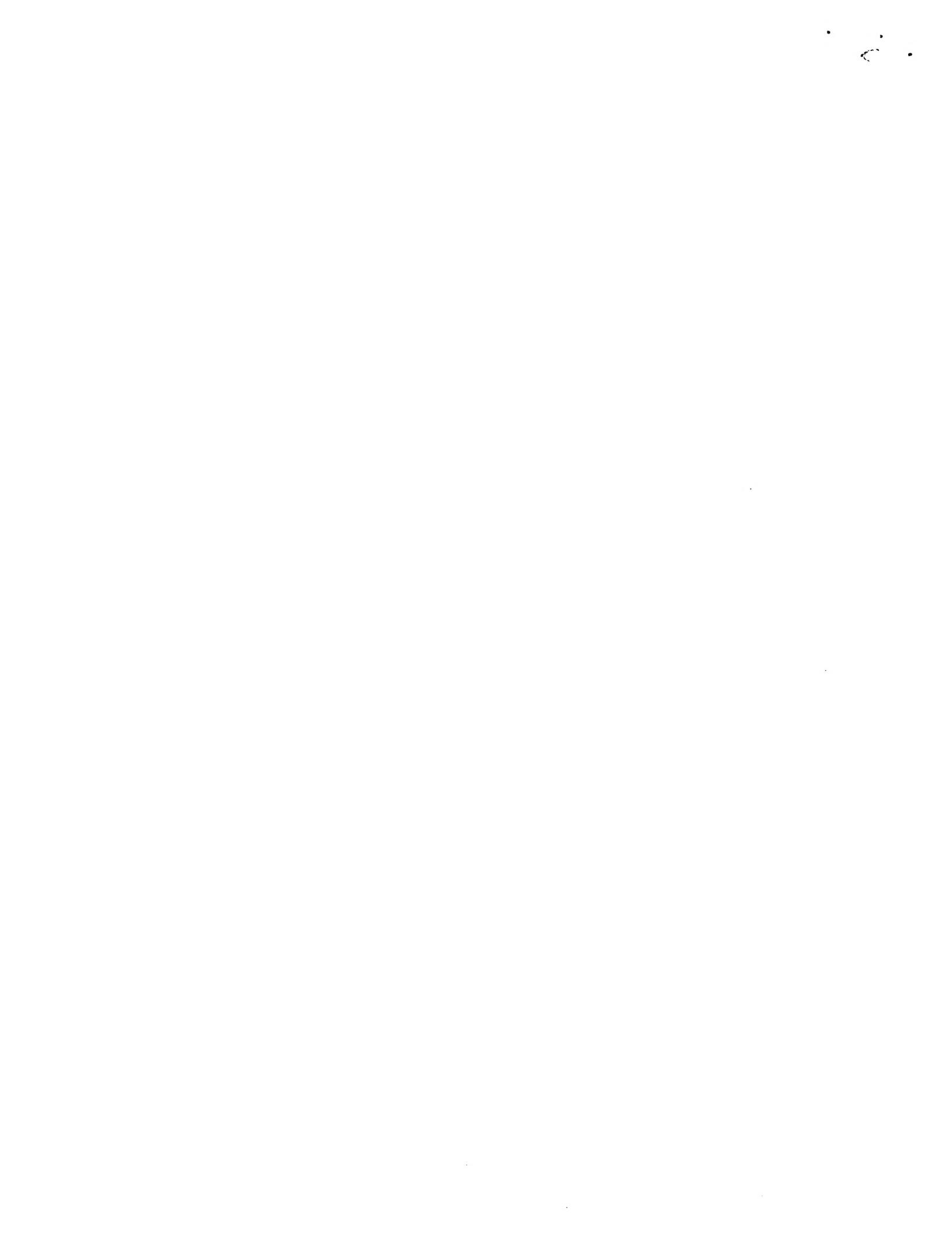
Manual Codes (CPI/A-N): A04-E10; A12-L05D; G06-A; G06-A08; G06-C14; G06-F06 ; G06-F07

Manual Codes (EPI/S-X): S06-A01A1; S06-A01A3; S06-A01B

Plasdoc Codes (KS): 0003 0210 0231 3251 2595 2718 2808

Polymer Fragment Codes (PF):

001 014 034 037 04- 062 064 477 516 523 53& 532 533 535 658 659 725



⑨日本国特許庁(JP) ⑩特許出願公開
⑫公開特許公報(A) 昭62-14657

⑪Int.Cl.⁴

G 03 G 5/14
5/05

識別記号

103
101

厅内整理番号

7381-2H
7381-2H

⑬公開 昭和62年(1987)1月23日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

⑭発明の名称 像保持部材

⑮特 願 昭60-152428

⑯出 願 昭60(1985)7月12日

⑰発明者 吉原 淑之 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
⑱出願人 キヤノン株式会社 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
⑲代理人 弁理士 山下 積平

明細書

1.発明の名称

像保持部材

2.特許請求の範囲

(1) 静電像またはトナー画像を保持する表面層を有する像保持部材において、表面層中に、フッ素原子を側鎖に有する重合性モノマーと分子鎖の片末端に重合性官能基を有し、且つ該重合性モノマーと重合後に上記表面層を構成する主たる(バインダー)樹脂と親和性を有するマクロモノマーからなるグラフトポリマーを含有させることを特徴とする像保持部材。

(2) 表面層に上記グラフトポリマーを0.01~1.0重量%含有せる特許請求の範囲第1項記載の像保持部材。

(3) 表面層が光導電層上に形成されてなる特許請求の範囲第1項及び第2項記載の像保持部材。

(4) 表面層が光導電性である特許請求の範囲第1項及び第2項記載の像保持部材。

3.発明の詳細を説明

[産業上の利用分野]

本発明は静電像またはトナー画像を保持するための像保持部材の改良に関する。

[従来の技術]

静電像またはトナー画像は種々の電子写真プロセスによって形成される。形成された画像を保持する像保持部材としては、電子写真感光体と称せられる光導電層を有する像保持部材と、光導電層を有しない像保持部材がある。

電子写真感光体は適用される電子写真プロセスの種類に応じて種々の構成をとる。電子写真感光体の代表的なものとして支持体上に光導電層が形成されている感光体および像保持層として光導電層とその絶縁層との積層を備えた感光体があり、広く用いられている。

電子写真感光体は所定の電子写真プロセスに適用されて、静電像が形成され、この静電像は現像されて可視化される。しかしてこのような像保持部材の表面層は電子写真プロセスにおける種々の

処理、例えば帯電、露光、現像、転写、クリーニングなどの電気的機械的処理に付される。そこで感光体を繰返し使用するためには表面層がこれらの処理に対する強い耐久性を有することが肝要である。とくに高湿下の環境における耐久性を満足する表面層は得がたいのが現状である。具体的には繰返しの使用により転写紙の紙粉等が表面層上に付着し、それが高湿下の水分とコロナ放電時に発生するオゾンによる相互作用で表面層上に低抵抗物の薄層が形成される。このような状態で形成された静電像を顕像化すると得られた画像は低抵抗物の層が形成された部分だけ流れたように見える現象(以後画像流れと称する)が生ずる。

このような高湿下での耐久性を向上させるためには、表面層を疎水化することが有効である。その手段としては、例えばフッ素系オリゴマーやフッ素系界面活性剤等の一般的な塗膜表面改質剤やテフロン等の粉末を分散させる方法がある。

しかしながら、一般的な表面改質剤は添加される塗工液の成分との相溶性に乏しいため、長期使

面層にフッ素原子を側鎖に有する重合体モノマーを構成成分として有するグラフトポリマーを含有せることを特徴とする像保持部材に関する。

以下、本発明を詳細に説明する。

本発明にかかる像保持部材の表面層の構成成分として用いられるフッ素原子を側鎖に有する重合性モノマーを構成成分として有するグラフトポリマー(以下フッ素系クシ型グラフトポリマーと称す)は、フッ素原子を側鎖に有する重合性モノマー(以下フッ素系重合性モノマーと称す)にマクロモノマー、例えば各分子鎖の片末端に重合性の官能基を有する分子量が1000から10000程度の比較的低分子量のポリマーからなるマクロモノマーを共重合して得られるものであり、フッ素系重合体の幹にマクロモノマーの重合体が枝状に繁がった構造を有している。

上記マクロモノマーには、該フッ素系クシ型グラフトポリマーが配合される表面層を構成する主材(例えばペインダー樹脂)と親和性のあるものが選択され、例えばアクリル酸エステル類、メタ

用の間に表面層の上に移行、ないし滲み出してくるので効果の持続性に問題があった。また表面層自体が光導電層を形成している場合、表面改質剤が光導電性物質との相溶性に乏しく、さらに光生成によるキャリヤーの移動に対してトラップとなり易く、繰返し電子写真プロセスにより残留電荷が増大していく傾向があった。一方テフロン粉末などを分散させた表面層においては分散性不良、透明性低下、キャリヤーのトラップなどの問題を生じていた。

〔発明が解決しようとする問題点〕

本発明の目的は上記の様な問題点を解消し、透明で疎水性にすぐれた表面層を有する像保持部材を提供することにある。

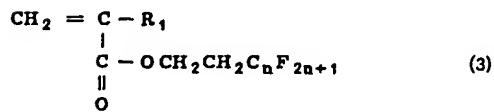
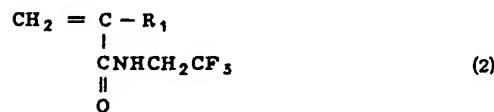
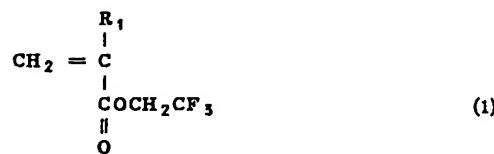
本発明の別の目的はくり返し電子写真プロセスにおいて残留電荷の蓄積がなく常に高品位の画像が得られる像保持部材を提供することにある。

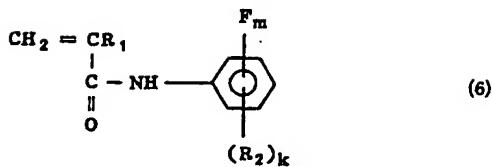
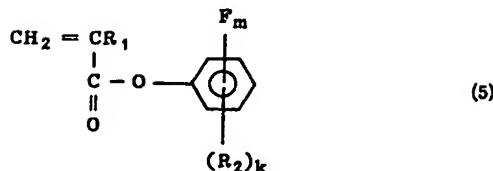
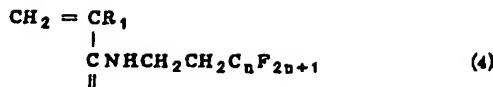
〔問題点を解決するための手段〕

すなわち、本発明は静電像またはトナー画像を保持する表面層を有する像保持部材において、表

クリル酸エステル類あるいはステレン化合物等の重合体や共重合体等が用いられる。

一方、フッ素系重合性モノマーとしては、以下の様な側鎖にフッ素原子を有する重合性モノマーの1種あるいは2種以上が用いられるが、何らこれらに限定されるものではない。





[式中 R_1 は水素原子またはメチル基を表わす。 R_2 は水素原子、ハロゲン原子、アルキル基、アルコキシ基、ニトリル基を表し、その数種類の組み合せでも良い。 n は 1 以上の整数、 m は 1 ~ 5 の整数、 k は 0 ~ 4 の整数を表わし、 $m + k = 5$ である。]

フッ素系クシ型グラフトポリマー中におけるフッ素系モノマー残基の含有量はフッ素系クシ型グラフトポリマー中 5 ~ 90 重量%が好ましく、10 ~ 70 重量%がさらに好ましい。フッ素系モノマー残基の含有量が 5 重量%未満であると、疎水化の改質効果は充分に発揮できず、又、フッ素系モノマー残基の含有量が 90 重量%を超えるとマクロモノマーとの溶解性が悪くなる。

本発明におけるフッ素系クシ型グラフトポリマーはかかる構造を有しているので表面層形成用のパインダー樹脂を含有する塗工液に対する相溶性がすぐれしており、従って得られる塗膜は良好な透明性を有し、且つ従来の表面改質剤の如き表面層上への移行ないし滲み出しをおこすことなく、効

果の持続性を有するものであり、またフッ素含有の枝の部分は界面移行性が優れているので少量の添加により表面の改質が達成される。更にこの添加剤を表面層に含有させてもくり返し電子写真プロセスによる残留電荷の蓄積がなく安定した帯電特性が得られる。これは、上述のようにフッ素系クシ型グラフトポリマーの界面移行性のため、光導電層のパルク中には実質的には該グラフトポリマーは存在せず、光キャリアの輸送をなんら妨げることなく、且つトラップの形成もないからである。フッ素系クシ型グラフトポリマーの添加量は表面層の固形分重量に対して 0.01 ~ 1.0 重量%が適当であり、特に 0.05 ~ 5 重量%が好ましい。添加量が 0.01 重量%未満では十分な表面改質効果が得られず、一方 1.0 重量%を越えるとグラフトポリマーが塗膜表面だけでなくパルク中にも存在するようになるため表面層の主成分である樹脂や光導電性物質との相溶性の問題から白化をひきおこしたり、繰返し電子写真プロセスを行ったとき残留電荷の蓄積が生じてくる。

フッ素系クシ型グラフトポリマーを含有せる表面層の形態としては(1)表面層自体が光導電層である場合は光導電性ポリマー又は光導電性粉末をパインダー樹脂中に分散もしくは溶解させた塗工液を塗布、乾燥することにより形成される；また(2)表面層が光導電層上に形成される場合、(a)表面層が比較的薄膜(0.0 ~ 1.0 μ程度)であり像形成プロセスが上記(1)と同一であるもの、及び(b)表面層が比較的厚い膜(1.0 ~ 5.0 μ程度)であり、像形成プロセスが上記(1)と異なるもの；などがあげられる。上記のいづれの場合も、表面層の形成のため用いられる組成物を溶剤に分散もしくは溶解させた液に前記フッ素系クシ型グラフトポリマーを添加し、得られた塗工液を適当な基材上あるいは光導電層上に塗布し乾燥することにより像保持部材が得られる。ここで表面層形成用組成物に含まれるパインダー樹脂や光導電性物質などは当該分野で通常用いられる既知のものが使用できる。

〔実施例〕

以下実施例により本発明を更に説明する。

実施例1

電子写真用感化亜鉛粉体100部（重量部、以下同様）、色素としてローズベンガル0.5部、メタノール5部、トルエン100部をポールミルにてよく分散した後、吸収口過により溶剤を除いた。こうして染色増感された感化亜鉛に結合剤としてアセトアルデヒド（商品名BM-1、积水化学製）20部、プロックイソシアネート20部、硬化剤としてトリエタノールアミン0.4部、溶剤としてメチルエチルケトン50部、エタノール20部を加え、再びポールミルにてよく分散して光導電性塗料を得た。これを下引き処理を施した80mm×300mmのアルミニウムシリンダーに浸漬塗布し、120℃、30分の加熱硬化により25μの感光層を形成した。

次にアクリル変性シリコン樹脂（商品名KR-3093信越シリコン製）100部をトルエン1500部に溶解した液に導電性TiO₂（商品名ECT-62チタン工業製）100部をポールミルにてよく分散し、保護層塗布液を得た。さらにこの

塗布液に、幹がポリフルオロアクリレート

(CH₂=CHCOOCH₂CH₂C_nF_{2n+1}重合体n=8, 10, 12, 14の混合物)で、枝が分子量5000のポリメチルメタクリレートより成る分子量80000、フルオロアクリレート含量50重量%のフッ素系クシ型グラフトポリマーを固体分として4部加えた。この溶液を上記感光層上に塗布し、100℃20分間熱風乾燥して2μの保護層を形成した。これを試料1とする。

比較のためフッ素系クシ型グラフトポリマーを添加しないものを試料1と同様にして作成した。これを試料2とする。

これらの試料に対して-5.5kVコロナ帯電、画像露光、乾式トナー現像、普通紙へのトナー転写、ウレタンゴムプレードによるクリーニングからなる電子写真プロセスにて耐久性評価を行った。その結果を表1に示す。なお評価環境は32.5℃、RH90%である。

表 1

試料1	4000枚まで安定な高品位の画像が得られた。
2	800枚で画像流れが生じた。

実施例2

CdS粉体100部（重量部、以下同じ）と結合剤としてジアリルフタレート樹脂（商品名・ダイソーグラップ、大阪曹達樹脂製）15部、および過酸化ベンゾイル0.5部をMEKに溶かし、ロールミル装置でよく混合して光導電性塗料とした。これを80mm×300mmのALシリンダーに浸漬法で塗布し、110℃10分間で硬化させ、40μ厚の光導電層とした。次にこの上に過酸化ベンゾイル3重量%を含むジアリルフタレート樹脂（同上）液を塗布し、110℃10分間で硬化させ、10μ厚の樹脂層をもうけた。

次いで、ウレタンアクリレート樹脂（商品名：ゾンネ、関西ペイント社製）を塗布し紫外線を照射して硬化させ、10μ厚の層を設けた。

更に、ポリサルホン樹脂（商品名ユーテルP-

1700UCC社製）10部をモノクロルベンゼン50部とMEK20部に溶解し、これに幹がポリフルオロアクリレート(CH₂=CHCOOCH₂CH₂C_nF_{2n+1}重合体n=8, 10, 12, 14の混合物)で枝が分子量5000のポリステレンよりなる分子量120000フルオロアクリレート含量30重量%のフッ素系クシ型グラフトポリマーを固体分として0.2部加えた。この液を上記層上に塗布し100℃20分乾燥して5μの表面層を形成した。これを試料3とする。比較のため、フッ素系クシ型グラフトポリマーを添加しないものを試料3と同様にして作成した。これを試料4とする。

こうして得られた試料に対し、一次+6kVコロナ帯電、二次ACコロナ帯電、同時画像露光、全面光照射、乾式トナー現像、普通紙への転写、ウレタンゴムプレードによるクリーニングからなる電子写真プロセスにて耐久性評価を行った。その結果を表2に示す。なお評価環境は32.5℃、RH90%である。

表 2

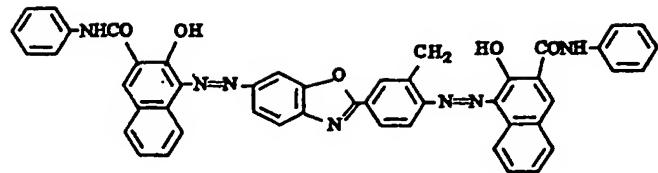
試料 3	50000枚まで安定した高品位の画像が得られた。
4	1000枚で白斑点が生じ、さらに2000枚で画像流れが生じた。

実施例 3

ニュージーランド産ラクチックカゼインを10部（重量部、以下同様）計りとり、水90部に分散させた後、アンモニア水1部を加えて溶解させた。一方、ヒドロキシプロピルメチルセルロース樹脂（商品名：メトローズ60SH50、信越化学製）3部を水20部に溶解させ、次いで両者を混合して下引き層の塗布液を作った。

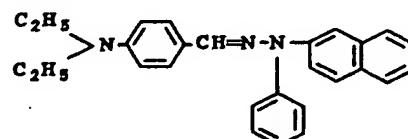
この液を80φ×300mmのアルミンダーニーに浸漬法で塗布し、80℃で10分間乾燥させ、2μ厚の下引き層を形成した。

次に下記構造式のジスアゾ顔料を10部



酢酸脂酸セルロース樹脂（商品名：CAB-381；イーストマン化学製）6部およびシクロヘキサン60部を1ℓガラスピーズを用いたサンドミル装置で20時間分散した。この分散液にメチルエチルケトン100部を加えて、上記下引層上に浸漬塗布し、100℃で10分間の加熱乾燥をして、0.1g/m²の塗布量の電荷発生層をもうけた。

次いで、下記構造式のヒドラゾン化合物を10部



及びメチルメタクリレート-ステレン共重合体樹脂（商品名MS-600新日鉄化学製）10部をモノクロルベンゼン55部に溶解した。この液に実施例1で用いたフッ素系クシ型グラフトポリマーを0.1部加えた。これを上記電荷発生層上に塗布し、100℃、1時間熱風乾燥して16μ厚の電荷輸送層を形成した。これを試料5とする。比較のためフッ素系クシ型グラフトポリマーを加えない試料を同様に作成し、これを試料6とする。

こうして得られた試料を-5.6kVコロナ帯電、画像露光、乾式トナー現像、普通紙へのトナー転写、ウレタンゴムプレードによるクリーニングからなる電子写真プロセスにて耐久性評価を行った。その結果を表3に示す。なお評価環境は32.5℃RH90%である。

表 3

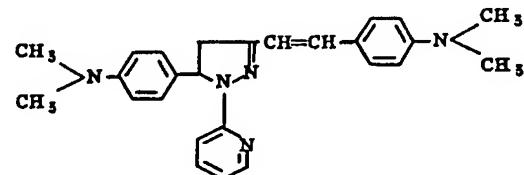
試料 5	5000枚まで安定で高品位の画像が得られた
6	800枚で画像流れが生じた

実施例 4

ニュージーランド産ラクチックカゼインを10部（重量部、以下同様）計りとり、水90部に分散させた後、アンモニア水1部を加えて溶解させた。一方、ヒドロキシプロピルメチルセルロース樹脂（商品名：メトローズ60SH50、信越化学製）3部を水20部に溶解させ、次いで両者を混合して下引き層の塗布液を作った。

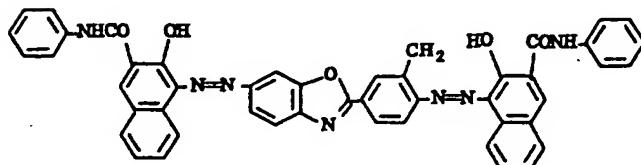
この液を80φ×300mmのアルミニウムシリダーニーに浸漬法で塗布し、80℃で10分間乾燥させ、10μ厚の下引き層を形成した。

次いで下記構造式のピラゾリン化合物を12部、ポリサルホン樹脂



(商品名: ユーテル P-1700 UCC 製) 10部をモノクロルベンゼン 52部に溶解した。この液を上記下引き層上に浸漬塗布し、100°C、1時間の乾燥をして16μの電荷輸送層を形成した。

次に下記構造式のビスアゾ顔料を10部



ポリビニルブチラール樹脂(商品名: エスレック BM-S、積水化学製)30部および酢酸アテル30部を1φガラスピーズを用いたサンドミル装置で20時間分散した。この分散液に、実施例2で用いたフッ素系クシ型グラフトポリマーを0.4部加えた。これを上記電荷輸送層上に塗布し、80°C、20分乾燥して2μの電荷発生層を形成した。これを試料7とする。

引き、この接線と前記表面とのなす角を意味する。本発明においては協和科学株式会社製の協和接触角計 CA-DS 型を用い10~30°C、20~80%RHの空気界囲気下で液滴調整器にて約0.001mlの純水を静かに試料面に置き30秒後接触角を測定した。

これらの結果を表5に示す。

表 5

感光体	接觸角(°)
試料1	105
2	74
3	115
4	78
5	109
6	71
7	108
8	68

比較のためにフッ素系クシ型グラフトポリマーを加えないものを試料7と同様に作成した。これを試料8とする。

こうして得られた試料を+5.6 kV コロナ帯電、画像露光、乾式トナー現像、普通紙へのトナー転写、ウレタンゴムプレードによるクリーニングからなる電子写真プロセスにて耐久性評価を行った。その結果を表4に示す。なお評価環境は32.5°C、RH 90%である。

表 4

試料7	4000枚まで安定で高品位の画像が得られた
8	700枚で画像流れが生じた

一方、上記試料の表面層の撥水性を調べるために、水に対する接觸角の測定を行った。

なお接觸角の測定条件としては、10~30°C、20~80%RHの空気界囲気を標準とする。

ここで接觸角とは、像保持部材表面に純水約0.001mlを置き、この際に形成された水滴と表面と空気の接觸点から、水滴表面に対して接線を

[発明の効果]

以上から明らかに如く、本発明によれば、表面層を構成する成分として特定のフッ素系クシ型グラフトポリマーを配合することにより、従来にない撥水性に優れ、高温高湿の環境下でも安定して高品位の画像が得られる像保持部材を提供することができる。

代理人弁理士 山下慎平